



極秘

414
A 792
10

第一種

陸軍第九六號ノ一三

明治三十一年七月廿六日發
米國「フロリダ」州「タンパ」港船中ニ於テ

陸軍砲兵少佐 柴 五郎 第十六報告

「サンチヤゴ」征戰經過ノ畧報

七月九日 本日正午ニテ愈々休戰期限満ツルニ當リ西軍尚ホ
降ラサレハ断然「サンチヤゴ」市ノ砲撃ヲ始メント「朝」
稍ヤ人氣立チテ午前十時頃ニ至リ西軍司令官「ト」
ル氏 後本ノ司令官「リナリス」氏ヨリ書ヲ米軍司令官ニ寄セ現況
ニ照ラシ彼我ノ利害ヲ講述シ米司令官ニテ西軍カ具武谷
彈藥及一切ノ軍需品ヲ携帶シ捕虜ノ取扱ヲ受クル「ナ
クシテ」「サンチヤゴ」退去スル「フ」承諾セバ自己ノ管轄ナル芽
四軍團管區「サンチヤゴ」ド、キニバ州ノ約三分一斗リノ廣サト聞



ク全部ヲ米軍ニ渡サンコトヲ提供シ且ツ是ニ對スル何分ノ返答
ヲ得ル迄ハ更ニ休戦ヲ繼續センコトヲ要望シ米軍司令
官ハ直ニ之ヲ本國政府ニ電報シテ訓示ヲ請ヒタリ此ニ於
テ休戦ハ更ニ延期セラレタリ
兼テ待テツ、アリシ増援兵ノ内義勇歩兵一聯隊 (1st Battalion
Royal Fusiliers) 及び常備野砲兵六中隊 (各六門) 及現在ノ四ヶノ四門
中隊ヲ六門ニ増加スル為メ更ニ八門ト之ニ附屬ノ人馬共
「ダイキユリ」ニ到着直ニ上陸ニ着手ス

七月十日 米政府ヨリ米軍司令官ニ向テ西軍カ全ク無
條件ニ降参スルニアラザレバ一切其要望ヲ聽クベカラ
ズトノ強硬ナル訓令米軍司令官ハ直ニ
西軍司令官ニ通シ且ツ本日午後三時迄ニ降ラザレバ
砲撃スベシト申送レリ然レモ西軍ヨリ何ノ返答ナシ

此ニ於テ午後五時半頃ヨリ全線同時ニ開戦シ砲兵可
ナリ盛ニ発火シ海軍ヨリモ「サンチャゴ」市ニ向テ遠巨砲射ヲナ
シテ戦ニ興レリ西軍ハ首トシテ砲兵火ノミヲ以テ之ニ応戦
シタリ兩軍共ニ其塹壕ヨリ一步モ動クコトナカリシ故死傷甚
少ナシ米軍ニ於テハ僅カニ十数名ノ死傷モナク日没ニ
達シ火戦モ暫ク止ミタリ此日ノ戦ノ目的ハ何ノ辺ニアリシ
カヲ知ラス只タ我カ増援モ到着シタルハ自今テ容赦ナ
ク砲撃スルゾトノ意氣ヲ敵ニ示シタル位ニ過キサルヘシ
後方ニ於テハ新タ到着セル増援兵ノ上陸ニ忙ハシ但シ歩
兵一聯隊ノ外ハ未タ戦線附近ニ到達セス
七月十日 早朝ヨリ砲戦始マリ海軍モ之ニ参與ス歩兵
ハ二日一日ニ經驗ヲ積ミ本日ニテハ最早初日以來ノ如キ
濫射ヲナク真ニ目的ヲ見テ狙撃スルニ至ル斯ク火戦ハ昨

日ニ等レク何ノ結果モナク午後三時頃ニ至リテ止ム米軍司令官ハ又タ使者ヲ敵軍ニ遣ハシ尚ホ未タ降参セ又乎ト侵シヤル蓋シ米人ノ考ニテハ昨日未ノ氣勢ナキ砲撃ニテ西人 大ニ閉口シタルナラント妄想セシナルヘシ本日未ノ陸軍総督「マイルス少将」シボローニ未看ス又タ他ノ義勇歩兵二聯隊 (8th Ohio 及 1st Ohio and Columbia) 及常備歩兵諸隊ノ補充兵九百名斗リ到着セリ
七月十二日 昨日西軍ニ申送りタル 侵降書ノ返答ヲ待ツ為ソト称シテ米人自分確ノニテ終日休戦ス蓋シ一昨日未ノ砲撃何ノ効モナキ故寧口増援砲兵ノ上陸終ルヲ待ツニ如カスト気付キタルモノ、如シ但シ米人自分確ノノ休戦ヲナセバ西人モ喜ニテ之ニ應スルモノト見ヘ同ク一発モ射撃セザルナリ

米軍中諸種ノ患者漸ク増加シ日々熱病ノ新患者三百名余アルニ至リ其内例ノ可恐黄熱モ不尠シテ尚ホ遠ニ蔓延ノ徴アリ米軍司令官始メ諸負漸ク征戦ノ結局ヲ急グノ必要ヲ感シタルモノ、如シ
七月十三日 昨日中ニ西軍ヨリ何ノ返答モナク又米ノ増援砲兵中ノ二中隊モ戦陣線附近ニ到達シタルハ愈々本朝ヨリハ再ニ開戦真面ノ攻撃ヲ実行セントテ昨夜未全軍何トナク活気ヲ生セシカ本朝ニ至リ西軍司令官ヨリ愈々降参ノ意ヲ述ベ且ツ親シク米軍司令官ト會見セシトテ請求シ未ル此ニ於テ未ノ陸軍総督軍専長騎兵師團長其他把握ニ当ル諸員ハ「サンホア」堡ノ前面米西ノ両戦線ノ中間ニ自旗ヲ植テキ西軍司令官「トナル」将官及其部下若干員ト會見シ談判一時間余ニシテ別レテ互

其戦闘線内ニ帰ル其商談スル所元ヨリ聞クヲ得サレ氏
只夕西軍司令官ヲシテ其本國政府ニ電報シ(西軍ハ
尚ホ本國トノ通信交通ヲ保持セリ)テ訓令ヲ仰グノ猶豫ヲ得セ
シムル為メ明十四日正午迄更ラニ休戦ヲ約シタリト云フ
七月十四日午前十時頃昨日ニ等シク米西軍司令官相會
見シ降服談判畧々整ヘタリトノテ陸軍総督ハ夕方
「シボニー」ノ乗船ニ帰ル

降服ノ(Surrender)ト云ハス Capitulatio ト云フ未タ適当ノ訳言ヲ
得ズ守地開ケ渡シトテモ云ハン(首ナル条件ハ在「サンチヤゴ」西軍司
令官ノ管轄區域ナル第「四軍管」一名「サンチヤゴ」軍管区云ク全部
ヲ米軍ニ開ケ渡シ該管内ノ諸兵ハ武器彈藥其他一切ノ
軍需物件ヲ米軍ニ納レテ降リ只夕將校以上ノミハ其隨
身ノ武器(即チ軍刀 奉銃ノ類)ヲ維持スルヲ得米政府ハ右降服ノ西

軍隊ヲ米政府ノ費用ヲ以テ可成速ク西本國ニ還送セシム
ベシト云フニアリ而シテ降服ノ総人員ハ「サンチヤゴ」及ビ其直接周
圍ニ一万二千斗、其外部各地ノモノ約八千即チ総斗二万斗
リト云フ尚ホ詳細ノ事項ヲ高談決定シ愈々降服ヲ成
行スル迄ニハ尚ホ若干ノ日子ヲ費スベシトテ西軍共未
戦線ヲ撤セス尚ホ嚴然トシテ相對持ス
七月十五日西軍降服ニ関スル手續キ等商談ノ為メ終日ヲ
費ヤス西軍共戰壕内ノ守地ニ若干ノ哨兵ヲ殘シ諸部隊
ハ其後方ニ集合休息ス
此「サンチヤゴ」征戦ニ殆レト終局、達シタレバ最早
尚ホ永ク滞在視察スルノ必要ナク之ニ及シ他ノ新征戰軍
隊西領「セントロ」島ニ向テ不日出發トシ、既ニ公然
秘匿スル小官、他ノ外國士官二名ト共ニ更ラニ轉シ

テ此新征戦ニ依軍スルヲ決心セリ依テ軍団長ニ謁シ先
ツ征戦ノ奏功ヲ祝賀シ次ニ「ポルトリコ」新征戦依軍ノ希望ヲ
述ベ此目的ヲ達スル爲メ必要ノ教示ヲ共ヘテレンコトヲ乞
フタリ軍団司令官之ニ答テ曰ク「ポルトリコ」征戦ノ「ナトハ
余ハ一切聞知スル所ナシ然レモ貴官等「ポルトリコ」島ニ至
ラント欲セバ便船ヲ求メテ英領「ヂヤマイカ」渡リ該地ヨリ
「ポルトリコ」赴クカ左ナクハ一旦米國ニ帰還シ諸事聞キ合
セテ自ラ處置セラルノ外ナカルヘシト抑モ軍団長ハ昨日
午後追陸軍総督ト一所ニ居テ談合シ加之陸軍総督自ラ
ガ即チ「ポルトリコ」遠征ノ司令官ニシテ「サンチヤゴ」ヨリ直ニ
「ポルトリコ」向ヒタル「後日明瞭トナレリ」然ルニ軍団司
令官ハ當時余等ニ答フルニ一切知ラサルヲ以テス不親
切ト云ハザル可カラズ殊ニ又愈々征戦軍ヲ派スルヤ否

ヤ又其時日ヲモ語ラズシテ直チニ英領ヲ經テ敵地「ポルト
リコ」ニ至レト勸告スルニ至テハ實ニ乱コホト云フベシ以上ノ如ク
何等ノ示指ヲモ得サレハ寧ロ速カニ米國ニ歸リ探知シタ
ル後新征戦軍隊ノ編制地若クハ出發地ニ至ルニ如カズ
ト決心シ小官ハ英及瑞典ノ公使館附ト共ニ(外國武官
ノ從軍セルモノ都テ九名ナリシガ六名ハ既ニ歸米シ小官
ト此二名ノミ今日迄残り居レリ)軍団長以下ニ告別
シテ「シボニー」ニ歸リ便船ヲ求ム
七月十六日西軍降服ノ談判全ク了スト聞ク
小官ハ「タンバ」港ニ歸航ノ小運送船ニ便乗ヲ許サル但シ
食料船賃自弁タルヘシト云フ米人外國武官ヲ待スルニ
無頓着ナルヲ見ルベシ
七月十七日西軍武器弹药器具他ノ軍需品ヲ米軍

ニ納ルト云フ

本日砲ヲテサンチヤゴノ港口開通シ未ノ船入港ス元来西艦隊沈滅後既ニ十四五日ニシテ且ツ港口ニ十門ニ足ラザル敵砲アルノミナルニ海軍カ今日迄港口ヲ閉キ得サリシハ稍ヤ不審ニ思ハルナリ

小官ノ使乗船終日シゴニ在ラ出奈セズ

七月十八日小官ノ使乗船其下積ノ荷物ヲサンチヤゴニ揚陸スル為ニ該港ニ回航ス港口東側ノモイロノ堡ハ救世紀以前ノ建築ニ係ル古城砦ニシテ今日ノ戦ニ堪ユベキモノニアラス然レモ外部ヨリ見レバ教個ノ彈跟ヲ有スルノミニテ未タ壞崩ニ至ラス港口西側及北方ニ海軍ヨリ取揚ケタル砲銃ヲ六門(砲種ハ不詳レハ十三冊知砲ノ如シ)及十五冊斗リノ絨臼砲四門斗リヲ見ル但シ船ノ甲板ヨリ

仰キ見タルノミナレバ悉シクハ分ラズ

又タ港口内少シク航路ヲ外レテ彼ノ米入ガ沈マタルノリマ

ツクノ歸僅カニ橋ト畑突ノ上部ヲ顕シテ沈没シ又其側

ニ西ノ巡洋艦 *Rama Maachies* 蹄半ハ轉覆シテ沈没シ

アルヲ見ル之レハ七月四日西人自ラ沈マタルナリト云フ港内

ニ西ノ商船大小六隻アリ皆米軍ノ戦利品タリ「サンチヤゴ

港ハ深淺宜シキニ適シ波平カニシテ池水ノ如ク内ニ教

百十ノ大艦船ヲ四時安全ニ繫泊スベキ天然ノ良港ニ

シテ又タ四周ノ风光甚タ佳ナリ港内各所ニ棧橋ノ設テ

アリ就中「サンチヤゴ市前ニアル二三ノモノ最モ大ニシテ同

時ニ七八隻ノ大船ヲ繫クマシ

米軍ハ市中ノ安寧ヲ維持スルニ必要ナルタケ即チ二聯

隊ノミヲ市中ニ納レ臨時民政長官(オ一師團長)ノ用ニ

供シ其他ハ悉ク市外高燥ノ地ニ幕官シ市内ニ入ルヲ
許サズ蓋シ紛雜ヲ避ケ且ツ黄熱其他ノ傳染病ヲ
預防セシカ為メナリ

市中ハ寺院官衙兵官病院等ヲ除クノ外ハ建築卑
陋街衢狹窄ニシテ頗ル不潔恰モ支那街ノ如シ各地方ヨリ
帰還セシ教千ノ飢民ハ赤十字社ノ賑恤所ニ蟻集シ未
西ノ將校兵卒ノ各方ニ馳ケ廻ルアリ傷病者ノ運搬死
者ノ送装等ニテ市中雜沓極ム然レモ毫モ喧噪不
穩ノ状ナク寧口陰哀ノ觀アリ
又夕米西ノ將校兵卒共ニ疾ク既ニ相親和スルノ状ニ
種ノ奇觀ナリシ兩國ノ軍人互ニ階級ニ應シテ相集リ
相話笑シ少シモ輕視嫌忌ノ状ナク昨日迄互ニ死ヲ決
シテ戰ヒタルモノトハ思ハレザル程ナリ既ニ二三ノ料理店

「カツアイ」店等ニハ米西ノ兵士一机ヲ圍ヒ烟ヲ吹キ杯ヲ奉
ケテ談笑スルサヘアリ又夕一種異様ノ觀ナリシハ米ノ將校ハ
衣帽破綻シ且ツ泥塵ニ塗レ加之無頓着ニテ市中ヲ徘徊
スルニ軍刀ヲ帶フルヲナク凡採擷ヲス戰勝者ノ威容ヲ
欠キ却テ戰敗者タル西將校ハ衣帽清淨且ツ悉ク軍刀
ヲ帶ビ巖然タル体裁ヲ備ヘタルナリ

七月十九日ハ官ノ乗船終日荷場ケニ役事ス此間ハ官ハ
各所ニテ西軍隊ノ屯所病院等ニ至リ其將校兵卒
等ニ就キ戰聞中ノ狀況ヲ問キ又米軍ニ對セシ西
戰聞線及諸砲台等ヲ實地ニ巡視シタリ西人中ハ仏
語ヲ解スルモノ不敷小官ノ為メト呻吟ニ託明セリ概シ
テ西軍將校ハ流石政州旧國ノ軍人タケテテ礼節辭
令ニ巧ニシレテ彼ノ米軍人ノ粗野ニシテ言辭礼節ニ

拘ラサルト正ニ相及對ス

本日見聞せん所ニシテ一二百ナルモノヲ左ニ掲ク

七月一日「サニヤゴ」及其附近ニアリシ西軍ノ兵教ハ入院患者等一切ヲ合スルモノ一万余ニ超ヘス當時實際戦陣ニ與リタル者ハ六千内外ナルカ如シ

七月四日朝二千四百ノ増援 *San Juis* ヨリ「サニヤゴ」入レリ市ノ外部周圍入口街衢ノ文義等ニ鉄條網鹿柴其他副防禦ヲ盛ニ設ク病院及民家ニ至西兵ノ負傷者ノ教ハ米ノ臨時民政廳ノ調査ニ依レバ五百斗ナリ

目下市内ニテ西兵ハ總教二万二千余ナリ此外市外ヨリ来リ降ルベキ筈ノモノ約一万斗ナリト云フ市内ニ在ル西軍ノ糧食元ヨリ裕ナルニアラサレト尚ホ少クモ二三週日ヲ支フルニ足ルモノ如シ

陸正面ニ於テ西軍ノ有セシ砲ハ軍艦ヨリ揚ケタル三吋ノ速射砲四五門ト古式ノ口装四斤野砲六門同ク十二斤攻城砲一門ナリ但シ此古砲ハ實際發セシト至テ少シト云フ西兵本年一月以來ノ俸給ノ支給受ケズト云フ

彼等ノ志氣概シテ阻表セリ小官ノ乗船中疾クモ既ニ黃熱患者發生シ之ヲ避病院ニ送附スル為メ晩「シボニ」ニ歸航ス

七月二十日昨夜来ノ黃熱患者三四名中一名死亡ス本朝暮ク之ヲ避病院ニ送リ附ケ再「サニヤゴ」港ニ廻航シ石炭ヲ積ミ午後二時愈々解纜「キニバ」島ノ南岸ニ泊シ西ニ向テ出航ス途中「センウエラ」艦隊燒夷沈滅ノ慘状ヲ見テ過ク以下航海中何ノ記スベキ「ナキ」ヲ以テ畧ス只夕輕症

極秘

ノ黄熱者更ニ四五名ヲ出シタレト幸ニ蔓延ノ兆ナシ
七月廿六日 無事トシテ港口ニ入り檢疫消毒ノ為ニ更
ニ週間滞在交通遮断ヲ命ゼラル
当地ニ着ノ上始メテ知ルコトトリコノ征戰軍隊ノ大部
分ハ既ニNew Yorkヨリ出発シ陸軍總督「マイルス
氏」即チ該征戰軍ノ總指揮官ニシテ「サンタヤゴニアル
若干部隊ヲ率ヒテ該所ヨリ既ニホルトリコニ発向セリト
此ニ於テ始メテ征戰軍ノ時機ヲ失シタルヲ恨メテ元
ヨリ詮ナシ然レモ尚ホ「ニューボーン」及ヒ其他ノ諸港
ヨリ出発スベキ軍隊モアリト聞ケバ檢疫済シ上陸ノ
上諸事聞キ合セタル後尚ホ該征戰ニ追及スルノ
望シアラハ之ニ從軍スベク君シ既ニ遲クシテ間ニ合ハ
ル様ナレハ一ト先ッ華盛頓府ニ歸還スル考ナリ

明治三十一年七月廿八日發

(米國「ワシントン」州「タンパ」港船中ニ於テ)
陸軍砲兵少佐 柴 五郎 第十七報告

實戰ニ於ル米國義勇兵ノ行為ニ関スル概評

義勇兵ハ米國特有ノ一種異リタル軍隊ナレハ其行動
ニ就テハ特ニ注意シタレト何分其數少ク(全軍歩騎兵ニ七
四聯隊半)ニテ之ヲ以テ二十万ニ近キ義勇兵全体ヲ推評ス
ルニ足ラサレト尚ホ幾分ノ参考トナルベシ
一 義勇騎兵聯隊ハ前報告ニモ述べシ如ク僻陬地方ノ牧
夫農民等ノ生來馬ニ跨リ山野ヲ馳驅スルモノヨリ成
レバ其性質モ自ラ粗朴剛毅ナルト且ツ聯隊長以下良
將校ヲ多ク有セシトノ為メ行軍駐止戰間共ニ先

二、マサチューセツト歩兵第二聯隊ハ上陸初日ヨリ行軍中ノ暑熱ト負擔ト堪ヘズシテ装具被服等ヲ行進途全長ニ亘リテ棄擲シタル為メ多少不規律ノ批評ヲ受ケタル位ニテ其他間然スル所ナキノミナラス戦陣間モ始終評判良カリシ
 三、紐育歩兵第七十一聯隊多クハ都會繁華ノ地ニ成長セル米人所謂自由國ノ自由民ヨリ成ル為メカ兎角軍紀嚴肅ナラサルノ批評アリ又七月一日「サンホアン」堡前面ノ戦ニ於テ該聯隊ノ某大隊ハ敵ノ射撃ニ避易シテ進ミ得サリシト師団長報告明記セラレ全國新聞ノ笑柄トナル但シ同聯隊他ノ大隊ハ相應

能ク戦ヒタリ試ニ當日該隊ノ損傷ト同旅団中他ノ二聯隊ノ損傷トシテ左ニ掲ゲン

常倫歩兵第十六聯隊
 全 才六聯隊
 紐育義勇兵第七十一聯隊

死			傷			踪跡不明		
將校	下士卒	合計	將校	下士卒	合計	將校	下士卒	合計
一	一三	一四	五	八二	八七	〇	〇	〇
〇	一三	一三	七	九五	一〇二	四	〇	四
〇	二	二	一	七	八	〇	三	三

四、^{「シカシ」}義勇兵才三十三聯隊及同三十四聯隊ノ一大隊ハ七月一日「アカドレス」ニ伴撃ヲ行フノ任務ヲ以テ代言人上リ常倫才六及才十六聯隊ハ各二大隊ニテ総員ハ各五百内外紐育才七十一聯隊ハ三大隊ニテ總員約千二百ヲ有ス

ノ旅団長其之ヲ率ヒテ前進シ敵ヨリ一面ノ齊奔ヲ喰テ
忽ケ潰散「シボニー」ニ逃ケ帰レリト云フ「二三日後此ノ
旅団長ハ不幸ニシテ病ニ罹リ該旅団ハ悉ク解散セ
ラレ旅團中ノ諸隊ハ他ノ諸師旅團ニ分属セラレタ
リ

以上各隊多少ノ批評ハアレヒ紐育ト「シガン」義勇歩兵
トヲ除ク外ノ二隊ニ係ルモノハ敢テ咎ムルニ足ラス又此
紐育及「シガン」歩兵ニ係ル過ケト虽氏生来初メテ戰
場ニ臨ミ神氣動揺セル生兵カ猛烈ノ射撃ニ遇フテ一時
恐惶ヲ来シタルナレバ敢テ玲シカラズ強テ絶對的ニ賤シム
程ニモアラス多少ノ寛恕ナカルベカラズ現ニ其以後ノ戰
（尤モ初日ノ如ク激戦ナリシモ）ニハ彼等モ其過ケヲ再ヒスル
「ナク神妙ニ働キワ、アルヲ見タリ

要スルニ義勇兵ヲ正規兵ニ比スレバ一々下劣ニシテ大ニ懸隔
アルハ素ヨリ論ヲ待タズト虽氏元来商估職工若クハ市井
ノ無頼ヲ驅リ集メテ下士卒トナシ代言人新聞屋商店
ノ番頭書記等ヲ其將校トナシ而カモ教練未タニケ月
ニ足ラサル烏合新募兵ノ動作トシテハ大ニ多トスベキモ
ノアリテ寧ロ賞賛ニ値ス試ニ君シ我邦ニ於テ此等ニ等
シキ階級職業ニ従事スル人ノ「シ」ヲ以テ急速ニ國民軍
ヲ編制シタランニハ其行為動作恐クハ未ノ義勇ヨリモ甚
ク優ル能ハサルナラント信ス

追記

「キエバ」叛軍ニ関スル概評
「キエバ」叛軍ニ関スル概評ヲ左ニ添記セン
「ガルシヤ」及「カステロ」等ニ將官部下ノ「キエバ」兵約五千ノ動

作三付テハ先ツ米軍上陸ニ先テコダイキユリノ西兵ヲ驅逐
シタルハ米軍ノ為メ大ニ價値アル援助タリシニ相違ナ
カルベシ又其後米軍ノ前進駐止中共ニ不絶前方
及側方ニ在テ恰モ騎兵幕ノ如ク警戒搜索ノ任ニ當
リ米軍自ラノ警戒甚タ不完全ナリシニ拘ハラス始終安
全ナルヲ得タルモ「キユバ」兵ノ力大ニ多トスルニ足ルモノアル
レ而メ實際ノ戦闘ニ於テハ七月一日少ク「カネ」ノ戦ニ參
典シタル氏特ニ筆スベキ効ナキノ「ナラス」却テ種々面白
カラザル評サヘアリ其後「サン」ヤゴ包圍中ハ常ニ米軍
ノ最左翼端ニ占陣シ其暗熟セル地形ニ因テ米軍ノ
翼側ヲ掩護シタル間接ノ効又タ大ナルベシ其外談兵
ノ動作ニ就テハ未タ特ニ記述スベキ「ツ」見聞セズ
抑モ「キユバ」兵カ自由権義ノ為メ國土独立ノ為メ

幾多歲月間艱難辛困乞食ノ様ニナル迄戦テ尚屈
撓セサル精神甚タ嘆賞スベシト虽氏又一方ヨリ見ルハ
餘リ長歲月間窮乏ノ境界ニ生息セシ為メカ或ハ彼等
生来ノ性質カ知ラサレモ將校以上少數ノ人ヲ除ク外
ハ其外自凡体ノ乞食然タルニ止マラス其性行志操迄テ
猶ヤ乞食ニ近ク且ツ甚タ残忍ノ性ヲ有ス彼等ニ関シテ
見ル「ツ」聞ク「ツ」多クハ賤陋可厭モノ多シ故ニ米軍人ノ多
クモ却テ「キユバ」兵ヲ賤ニ寧ロ西ノ捕虜員傷者等ニ向
テ好情ヲ有シ西兵モ亦タ米人ニソコ力尽キテ降参シ
タレ何ノ「キユバ」兵杯ニ負ケルモノカト負ケ惜ミツキツ、ア
リ又「コ」ガルシヤ以下其他ノ部將モ實ハ一小天地ニ野心ヲ
有スル英雄ニ過キス西人撤去セル後「キユバ」島ヲ彼等
ノ手ニ委セバ忽々彼等互ニ同志打ヲ始メ良民ヲ茶

毒ヲ止マサルノ南米及中央亞米利加ノ諸共和國ノ
小英雄ト同一般ナルベシト信ズ而シテ其曉ニ於テ再ヒ米
人ノ干渉トナリ遂ニ該島ハ米人ノ手ニ落テガレバ止マ
サルナルベシ或ハ思フ米人既ニ「キエバ」人ノ保護シ甲斐ナ
キ「フ」ヲ萬々承知シ居レバ此度ノ戦争後「キエバ」ノ独
立杯ヲ認ムル「フ」ナク更ニ何トカ「口實」ヲ作爲シテ直ニ
「キエバ」島ヲ已レ「版圖」ニ併セント試ムルヤモ難斗

極秘

明治三十一年八月五日米國華盛府發

陸軍砲兵少佐柴五郎第十八報告

小官七月三十日「タンパ」港ニ上陸八月一日「ト」先ツ當
華領府ニ歸還レタリ第十七號報告ニ述ベタリ
「フ」ポルトリ「口」島征戰從軍ノ「フ」之ヲ止メ暫ク當
地ニ止リテ視察シ且ツ今日追送呈セシ報告ノ欠
畧ヲ補綴スル事ニ從事スル考ナリ
既ニ開始セラレタ「平」和談判成レハ勿論、繼シ未
ク成ラサルモ確カニ成就スヘク且ツ再ヒ戰鬥ナ
キ事ヲ確メ「上」先「二」報告ニテ陳述セシ
通り別令ヲ待タス英國ニ歸任スル考ナリ右了
セラレタシ

平和談判開始

七月二十九日當地駐在ノ佛國大使「カンボン」氏ハ
西國政府ノ全權委任ヲ受ケ米大統領ニ面シ
テ平和談判ノ開始ヲ申込ミ七月三十日大統
領ヨリ米政府ノ要望スル平和條件ヲ佛大
使ニ示シ佛大使ノ辯論ニ依テ多少ノ讓歩修訂ヲ
加ヘタル後此該條件ハ西本國政府ニ送致セ
ラレタリ右平和條件ノ要目左ノ如シ
一、米政府ハ一切債金ヲ要ホセサルヲ、西國ハ
全ク「キニバ」島ノ主權ヲ放棄ス直チニ其
ノ政權ヲ該島ヨリ撤退スヘキヲ
二、「ポルトリ」口及其ノ他西印度群島中ニ在ル西
國ノ領地悉皆及「Saldanias」群島中ノ一ヲ米國

ニ讓與スヘキヲ

三、菲律賓賓島ノ

統轄取扱及其ノ政府ニ関
スル諸條項ヲ平和條約決定ニ依テ確定セラ
ル、追米國「マニラ」府及「マニラ」灣ヲ占領ス
ヘキヲ

四、西政府ハ以上ノ三件承諾ノ上平和談判委

員ヲ撰定シ米政府ノ撰定セル委員ト會
合シ以上ノ條項ニ基キ平和條約ヲ商議決
定スヘシ云々

七月三日西政府ハ「キニバ」及菲律賓賓島ニ設ケラルヘキ
將來ノ政府、該島ニ於テ將來西人ノ享有スヘ
キ權利及玖瑪島ニアル軍需物件ノ處置等
ニ付米政府ノ意見説明ヲ求メ米政府ハ直チ

ニ之レニ答スル所アリ然レモ西政府ヨリハ未タ何等ノ返答ナシ但シ世間一般傳フル所ニ依レハ西政府ハ右條件ヲ承諾シ數日ヲ出テスシテ平和成ルノ望ミアルモノ如シ又米政府モ尚更ニ少シノ讓歩ヲ西ニ與フルモ一日モ速カニ戦争ヲ終結セント欲スルノ念慮切ナルモノ如シ多分玖瑪島ニ在来ノ武器彈藥其他一切ノ軍需物件ハ西政府ニ持テ去ルヲ許スナラントノ評判アリ

米政府カ戦争ヲ終結セントスルノ念如此切ナルノ理由素ヨリ多々ナルヘシト虽モ其ノ軍事ニ関スルモノ、首ナルモノハ左ノ諸件ナラント示ス

一、菲律賓賓征戰軍司令官ヨリ該島全部ヲ

征服スルニハ少クモ十五万ノ陸軍ヲ要ストテ之レヲ請ホシ来リタレモ此事米國ノ現況ニ於テ出来難キコトニテ米政府ヲシテ該島征服ノ望ミヲ失ハシメタル事

二、在「サンチヤゴ」第五軍專ノ病兵漸ク盛シクナリ目下五六隻ノ病院船ニテ本國ニ送り切レス「サンチヤゴ」ニ波滯スル者四千五百人日々ノ新患者ハ百餘人其三分ノ二以上ハ熱ニテ其、他ハ下痢多シト云フ最モ日々退院スルモノ亦少カラサレモ之レヲ新患者ニ較フレハ少シクモシト云フ

三、又軍ニ出征軍隊ニ患者多キノミナラス開戦以來盛夏ノ候三ヶ月餘内地各處ニ幕営セルニ

十萬ニ近キ義勇兵ハ本来軍人ノ生活ニ慣レサル
モノナルカ故漸ク疲困倦怠ノ情ヲ来セルノミナ
ラス彼等ノ内ニモ種々悪性ノ熱病下痢等發
生シ次第ニ蔓延ノ模様アリ隨テ此等新募
兵ノ常習トシテ軍紀漸ク弛緩シ統治ニ難
キノ觀ヲ顯シ来ル

私カニ察スルニ米ノ常倫正規兵ノ内地ニアルモノハ殆ント皆
無ク近ク其既ニ出征シタルモノハ損傷死傷甚ク加之
米軍ニハ適當ノ補充法ナキカ故今後二三ヶ月間ニ之ヲ
旧体ニ復セシメ再ビ「ハバナ」ノ本征戰ニ使用セシト蓋
シ至難ナルベシ
又義勇兵ニ就テ考フルニ「サンタヤゴ」實地ニ於ケル彼等
ノ行動及現今内地ニ於ケル彼等ノ有様ハ共ニ二十カノ

義勇兵ハ半數ノ西國正規兵ニ當ルニ足ラサルコトヲ明カニ
証明スルモノト信ス故ニ君シ西國ノ内情及財政ニ於テ
之レヲ許シ尚ホ屈セス戰争ヲ繼續シタラシニハ米軍
果シテ預期ノ如ク秋季九十月ノ頃ヨリ愈々「ハバナ」
ノ本征戰ヲ實行シ得ルノ勇斷アルヤ否ヤ甚ク疑
ハシ況ンヤ比利賓ノ情況前述ノ如クナルニ於テヤ

ポルトリコ 征戰畧報

第一軍団ノ先頭ハ七月廿五日敵ノ抗抵ナク「ポルトリコ」
島ノ南岸 *paranacá*ニ上陸廿六日西ノ小部隊ヲ追
テ *Parce* 港ニ進ミ米軍ノ他ノ一部隊ハ廿七日是又
抗抵ナク「ボンス」港ニ上陸シ地方ノ人民攀テ米軍ヲ
歡迎ス

陸軍總督「マイル」は女將モ廿七日「ボンス」ニ上陸ス八月一日
米軍ノ先頭「ボンス」ヨリ十六英里ナル「Coama」ニ至ル少シ
ノ抗抵「キ」ノ「ナラス」沿途ノ人民歡迎ス該地方ヲ守
備セル一千斗リノ西兵ハ島ノ北岸首府「San Juan」ニ
向テ退ク又地方ノ義勇兵ハ續々來テ米軍ニ
投降ス「マイル」少將ハ全軍ノ上陸ヲ待テ「ボンス」ヨリ
約七十五英里ナル「サンホア」ニ向テ行進シ該所ヲ
攻撃スル積リナリト云フ
又「ボルトリ」コ島ノ占領守備ニ充テラルベキ他ノ一
軍団ハ近日米國ノ「コ」ポルト「ニユース」ヨリ出發ノ
客然ル片ハ米軍ノ約三万ニ近クシテ西ノ正規兵ハ僅
カニ八千ニ過キズト云ヘバ彼我ノ勢懸隔且ツ勝敗ノ
大教既ニ定リアレハ今後格別ノ戦ミナカルベキ「マイル」

ルス將軍「英里」大兵ヲ再シ見戲ノ如キ「コ」ヲ為シ居
ルハ一ハ西ト平和談判上ノ掛テ引キ「コ」一ハ内地政治社
會ニ勢力ヲ具シ議員其他ノ人々ノ自州ヨリ出テタル
義勇兵ヲ可成沃山「ボルトリ」コノ戦地（道路気候共
佳良ニシテ「コ」ニハ大ニ相違スト云フ）ニ遊歩サセテ戦
地出張ノ名譽ヲ得サセ内地政治家ノ御機嫌取
リ「マイル」ス總督作戦ノ大方針ナリトノ評判專ラ
ナリ元素「ボルトリ」コ島ノ首府ハ島ノ北岸「サンホア」
ニテリ該地殆ント外海ニ暴露シ海軍ヨリ容易ニ
砲撃ヲ為シ得ル所ト聞ク且ツ全島ノ守兵八千ニ
足ラザルニ堂々タル合衆國陸軍總督自ラ三万余
ノ兵ヲ率テ殊更ニ島ノ南岸「ボンス」ヨリ上陸セルノ
理由何カニアルカ一切チラズ或者曰ク「サンホア」

除テハ上陸点トスベキ港ノ只タコホニスノナリト或ハ
然ランコボルトリヨニ戦ニ関シテハ尚ホ更ニ研究ノ上再
ニ報告ヲ呈スベシ